

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市北老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数3回、延参加者数49名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数219回、延参加者5,367名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（28同好会、実施回数576回、延参加者数7,617名） ボランティア活動への支援など（延参加者数4,057名） 北区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数192名） （4）教養講座（実施回数54回、延参加者数955名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数4回、延参加者数216名） 共同事業（実施回数1回、延参加者数39名） （6）各種相談（相談件数52件） （7）一般娯楽（実施回数610回、延参加者数6,392名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （8）各種広報紙の発行（約1,400部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （9）その他 ・合築施設合同消防避難訓練 ・実習生の受入れ（近畿高等看護専門学校2名） ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、契約職員1名 臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

24,639 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況(単位: 円)

委託料	9,817,528
その他	77,897
収入計	9,895,425

イ 令和5年度支出状況(単位: 円)

人件費	7,538,744
事業費	1,614,858
委託費	144,623
小額修繕費	
その他	
支出計	9,298,225

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。

【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施

【設問数】 7問

【回答数】 241件

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について

- 1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足45.6% 満足51.9% 不満0% たいへん不満0% 無回答2.5%
- 2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足43.2% 満足54.8% 不満0% たいへん不満0% 無回答2.1%
- 3 「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足47.7% 満足50.2% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答1.7%
- 4 「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足46.5% 満足51.0% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答2.1%
- 5 「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足44.8% 満足53.1% 不満0% たいへん不満0% 無回答2.1%
- 6 「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足46.9% 満足50.6% 不満0% たいへん不満0% 無回答2.5%
- 7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足43.2% 満足53.5% 不満0.8% たいへん不満0% 無回答2.5%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、児童館との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、北区地域介護予防推進センターと連携した「やわらか頭教室」や「リズム体操」を実施。その他、講師による「マットでピラティス」、「流行り歌ビクス」を実施した。教養講座では、「美術館とは何か」「スマホ教室」「楽しい折り紙」等を開催した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市上京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数17名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数628回、延参加者数12,821名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（30同好会、実施回数619回、延参加者数8,210名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数651名）
上京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数1,066名）
- （4）教養講座（実施回数56回、延参加者数1,516名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流事業（実施回数6回、延参加者366名）
共同事業（実施回数1回、延参加者数29名）
- （6）生きいきサロン（実施回数34回、延参加者数443名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数22件）
- （8）一般娯楽（実施回数244回、延参加者数3,930名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約2,300部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校8名、京都保健衛生専門学校8名、京都中央看護保健大学校6名、府立医科大学54名、ワシントン大学留学生1名）
 - ・上京区エコまちステーション場所提供
 - ・同志社大学キャンドルライト制作協力
 - ・上京警察署 交通安全・防犯啓発
 - ・上京消防署 防火講座

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

32,973 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	13,131,836
その他	209,112
収入計	13,340,948

イ 令和5年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	10,115,704
事業費	2,463,898
委託費	775,023
小額修繕費	0
その他	
支出計	13,354,625

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。

【方法】 事業参加者に対し、4段階評価で実施

【設問数】 7問

【回答数】 373件

(2) 「スポーツボイス講座」

参加者の年齢・居住区・感想・要望などを知るために行った。

【方法】 選択方式と自由記述で実施。

【設問数】 5問

【回答数】 18

(2) 「人生の終い支度～もしもの時に備えて話し合っていますか～」

参加者の年齢・居住区・感想・要望などを知るために行った。

【方法】 選択方式と自由記述で実施。

【設問数】 5問

【回答数】 34

(2) 利用者満足度把握の結果

—

(1) の結果について

- 1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足51.2% 満足46.6% 不満0.5% たいへん不満0% 無回答1.6%
- 2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足45.6% 満足51.5% 不満0% たいへん不満0% 無回答2.9%
- 3 「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足50.9% 満足45.6% 不満0.5% たいへん不満0.3% 無回答2.7%
- 4 「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足52.0% 満足45.0% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答2.7%
- 5 「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足47.7% 満足48.0% 不満0.8% たいへん不満0% 無回答3.5%
- 6 「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足46.9% 満足49.3% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答3.5%
- 7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足40.8% 満足53.9% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答5.1%

(2) の結果について

参加してすごく良かった61%、良かった33%、普通6%

また参加したい はい94%、いいえ0%、どちらでもない6%

【自由記述から抜粋】

- ・家でも声を出してみます。
- ・ついていけないところがあり、むずかしかった。
- ・こんなにハードだとは思っていなかったけど、楽しく勉強になりました。

(3) の結果について

とても参考になった68%、少し参考になった29%、その他3%

【自由記述から抜粋】

- ・自分の考えを娘達に話しています。
- ・妻と話し合いを深め、「もしも」の話を共有したいと思います。
- ・元気な時と弱っている時と考えが少し違ってくると思う。

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。

(2) 講師と共有し、今後の介護予防講座の参考とする。

(3) 今後の講座の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、児童館や地域の関係機関と交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1 種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、「すこやか体操（毎日2回）」、「いきいき百歳体操&かみかみ体操」、「大人のぬり絵」を職員が実施。上京区地域介護予防推進センターと連携した「ひだまり広場体操」「介護予防講座よってや」を開催。教養講座では、関係機関と連携して「住み慣れたまちでいつまでも」をテーマに認知症サポーター養成講座を開催した。そのた、上京区の文化をテーマにした「千本えんま堂」や「西陣織」等の講座を実施した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市左京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数31名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数398回、延参加者数8,164名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（38同好会、実施回数1,346回、延参加者数22,749名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数2,041名）
左京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数658名）
- （4）教養講座（実施回数34回、延参加者数842名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数7回、延参加者数167名）
共同事業（実施回数1回、延参加者数39名）
- （6）生きいきサロン（実施回数44回、延参加者数839名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数49件）
- （8）一般娯楽（実施回数72回、延参加者数2,030名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,600部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・合築施設合同消防訓練
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校8名、佛教大学看護学科8名、京都中央看護保健大学校看護保健学科6名）
 - ・交通安全教室
 - ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

39,370 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位: 円)

委託料	29,155,688
その他	325,871
収入計	29,481,559

イ 令和5年度支出状況 (単位: 円)

人件費	12,872,015
事業費	4,052,096
委託費	11,747,379
小額修繕費	121,000
その他	
支出計	28,792,490

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施
【設問数】 7問
【回答数】 380件
- (2) 「映画マラソン」アンケート (4/20実施)
忠臣蔵に所縁のある老人福祉センター、左京・中京・北にて、「映画マラソン」と題して事業を行った。共同事業の感想と要望を知り、次年度共同事業に活かすためアンケートを行った。
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
【設問数】 6問
【回答数】 6
- (3) 「認知症サポーター養成講座」アンケート (9/25実施)
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
【設問数】 5問
【回答数】 39
- (4) 「人生の終い支度」アンケート (12/7実施)
【方法】参加者に対し、選択方式で実施。
【設問数】 5問
【回答数】 13
- (5) 「多世代事業 工作教室」アンケート (12/9実施)
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
【設問数】 7問
【回答数】 20

(2) 利用者満足度把握の結果

—

(1) の結果について

- 1「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足41.8% 満足56.8% 不満0.8% たいへん不満0% 無回答0.5%
- 2「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足41.3% 満足57.6% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答0.8%
- 3「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足45.5% 満足53.4% 不満0.5% たいへん不満0% 無回答0.5%
- 4「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足46.3% 満足52.9% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答0.5%
- 5「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足42.6% 満足55.5% 不満1.1% たいへん不満0% 無回答0.8%
- 6「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足42.4% 満足57.1% 不満0% たいへん不満0% 無回答0.5%
- 7「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足38.9% 満足60.3% 不満0.3% たいへん不満0.3% 無回答0.3%

(2)「映画マラソン」アンケートの結果

共同事業について：また参加したい100%、参加しない0%

参加動機：面白そう37%、好きな俳優が出演12%、懐かしかった13%、その他25%、無回答13%

(3)「認知症サポーター養成講座」アンケートの結果

受講して良かった77%、普通20%、物足りない3%

認知症に対して認識が変わりましたか？：とても変わった15%、いくらか変わった57%、あまり変わらない14%、どちらともいえない14%

(4)「人生の終い支度」アンケートの結果

とても参考になった80%、少し参考になった10%、その他10%

(5)「多世代事業 工作教室」アンケートの結果

参加して良かった100%、次回も参加したいですか？参加したい100%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。

(2) アンケート結果は中京・北老センと共有し、今年度の共同事業の参考とする。

(3) 継続して受講したいです。 サポーターの方々と協力していきたいなどあり、毎年1回以上講座開催を予定する事とする。

(4) 子供達との交流は、忘れていた昔を思い出せた。小学生との工作教室、とても楽しかったです。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や教養講座への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、児童館や大学生と地域団体との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、公園体操ボランティアによる「公園体操in左京老セン」、左京区地域介護予防推進センターと連携した「健康和太鼓講座」、「らくらくエアロビクス」、「コアバランスエクササイズ」等を実施した。教養講座では、職員による「季節の折り紙講座」を月1回開催。また、ボランティア活動として、スマホ同好会会員が指導する「スマホでつながるサロン」、おもちゃ修理「左京トイクリニック」の支援を行った。地域交流事業では、児童館との将棋交流や、京都工芸繊維大学学生との共催事業として、他世代が交流する工作教室を開催した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市中京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数2回、延参加者数37名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数338回、延参加者数5,039名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（22同好会、実施回数611回、延参加者数9,023名） ボランティア活動への支援など（延参加者数150名） 中京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数35名） （4）教養講座（実施回数40回、延参加者数454名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数1回、延参加者数46名） 共同事業（実施回数1回、延参加者数25名） （6）各種相談（相談件数15件） （7）一般娯楽（実施回数404回、延参加者数7,535名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （8）各種広報紙の発行（約1,200部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （9）その他 ・防火講座、防災訓練、シェイクアウト訓練の実施 ・就労チャレンジ体験の受入れ ・実習生の受入れ（京都保健衛生専門学校8名、近畿高等看護専門学校2名） ・LINE公式アカウントでの情報発信
--

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、契約職員1名 臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

29,454 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	9,825,909
その他	240,591
収入計	10,066,500

イ 令和5年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	7,766,776
事業費	1,975,868
委託費	387,935
小額修繕費	50,875
その他	
支出計	10,181,454

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。

【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施 【設問数】7問、【回答数】269

(2) ~ (20) 参加者の感想や要望を知り、内容の充実を図るため、下記のアンケートを行った。

【方法】選択方式と自由記述で実施

(2) スマホ勉強会	【設問数】4問、【回答数】17
(3) 色えんぴつ画講座	【設問数】4問、【回答数】26
(4) 生け花講習会	【設問数】4問、【回答数】7
(5) 椅子ヨガ講座	【設問数】4問、【回答数】32
(6) 京都大丸の歴史と京都とのかかわり	【設問数】4問、【回答数】22
(7) 家庭内事故予防	【設問数】4問、【回答数】16
(8) 市場～市場	【設問数】4問、【回答数】18
(9) スマホ教室	【設問数】4問、【回答数】8
(10) スマホ安全教室	【設問数】4問、【回答数】16
(11) スポーツボイス	【設問数】4問、【回答数】20
(12) 新選組と京都	【設問数】4問、【回答数】22
(13) 元気ワクワク健康教室	【設問数】4問、【回答数】25
(14) スマホ相談会	【設問数】4問、【回答数】16
(15) スクエアステップ講座	【設問数】4問、【回答数】22
(16) 認知症のお話+コグニサイズ	【設問数】4問、【回答数】25

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について

- 1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足49.8% 満足49.4% 不満0.7% たいへん不満0% 無回答0%
- 2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足42.8% 満足56.1% 不満0.7% たいへん不満0% 無回答0.4%
- 3 「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足46.8% 満足52.4% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答0.4%
- 4 「言葉使いや説明は親切でいいですか」
たいへん満足50.6% 満足48.3% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答0.7%
- 5 「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足43.9% 満足55.4% 不満0.7% たいへん不満0% 無回答0%
- 6 「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足45.0% 満足54.6% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答0%
- 7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足42.8% 満足54.3% 不満1.1% たいへん不満0% 無回答1.9%

(2) ～ (15) の設問

- ①講座を何でお知りになりましたか
A: 広報紙、B: ポスター、C: 知人、D: ライン、E: その他、F: 無回答
- ②内容はいかがでしたか
A: 楽しかった、B: 参考になった、C: 少し難しかった、D: 無回答
- ③今後も講座に参加したいか
A: そう思う、B: どちらかというと思う、C: どちらかというと思わない、D: 無回答
- (2) スマホ勉強会のアンケート結果
①A41.2%、B47.1%、D5.9%、F5.9% ②A23.5%、B52.9%、C11.8%、D11.8%
③A94.1%、D5.9%
- (3) 色えんぴつ画講座のアンケート結果
①A15.4%、B53.8%、C15.4% ②A26.9%、B26.9%、C42.3%、D3.8%
③A76.9%、B19.2%、C3.8%
- (4) 生け花講習会のアンケート結果
①A14.3%、B57.1%、D14.3%、E14.3% ②A71.4%、B28.6% ③A100%
- (5) 椅子ヨガ講座のアンケート結果
①A40.6%、B37.5%、C6.3%、D9.4%、E6.3% ②A71.9%、B25%、C3.1%
③A87.5%、B6.3%、C6.3%
- (6) 京都大丸の歴史と京都とのかかわりのアンケート結果
①A27.3%、B68.2%、D18.2% ②A50%、B36.4%、C4.5%、D9.1%
③A90.9%、B9.1%
- (7) 家庭内事故予防のアンケート結果
①A18.8%、B62.5%、D12.5%、E6.3% ②A6.3%、B93.8% ③A93.8%、B6.3%
- (8) 市場～市場のアンケート結果
①A38.9%、B44.4%、C5.6%、E11.1%、F5.6% ②A22.2%、B72.2%、D5.6%
③A83.3%、B11.1%、C5.6%
- (9) スマホ教室のアンケート結果
①A62.5%、B12.5%、D25% ②A12.5%、B75%、C12.5% ③A87.5%、B12.5%
- (10) スマホ安全教室のアンケート結果
①A50.0%、B43.8%、D6.3% ②A25%、B75% ③A93.8%、B6.3%
- (11) スポーツボイスのアンケート結果
①A50%、B25%、F25% ②A65%、B10%、D25% ③A60%、B15%、D25%
- (12) 新選組と京都のアンケート結果
①A45.5%、B50%、D4.5% ②A22.7%、B59.1%、C9.1%、D9.1%
③A72.7%、B22.7%、C4.5%
- (13) 元気ワクワク健康教室のアンケート結果
①A48%、B28%、C4%、E16%、D4% ②A52%、B48% ③A96%、B4%
- (14) スマホ相談会のアンケート結果
①A31.3%、B50%、D18.8% ②A18.8%、B68.8%、C6.3%、D6.3%
③A87.5%、B12.5%
- (15) スクエアステップ講座のアンケート結果
①A36.4%、B50%、D18.2%、E4.5% ②A100% ③A95.5%、B4.5%
- (16) 認知症のお話+コグニサイズのアンケート結果
本日の講座は参考になりましたか 満足19%、やや満足20%
家族や友人にも教えたいと思いましたが はい100%
他の講座にも参加したいと思いましたが はい100%

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、保育園との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「筋トレ」、中京区地域介護予防推進センターと連携した「介護予防運動①②マットエクササイズ」、「みんなの脳トレ」等を実施。その他、ボランティアによる「公園体操」や、その他講師による「椅子ヨガ講座」、「認知症のお話+コグニサイズ」、「スクエアステップ講座」等を実施した。教養講座では、「新選組と京都」や「スマホ教室」等を実施した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市東山老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数2回、延参加者数33名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数257回、延参加者数2,845名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（24同好会、実施回数729回、延参加者数7,718名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数479名）
東山区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数1,361名）
- （4）教養講座（実施回数31回、延参加者数448名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数3回、延参加者数78名）
- （6）各種相談（相談件数12件）
- （7）一般娯楽（実施回数1,008回、延参加者数6,027名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （8）各種広報紙の発行（約700部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （9）その他
消防計画に基づき、消防活動・防災活動・防災設備点検を実施
マイナンバーカード出張申請窓口会場提供
交通安全啓発
LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

22,344 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位: 円)

委託料	7,895,273
その他	201,941
収入計	8,097,214

イ 令和5年度支出状況 (単位: 円)

人件費	7,425,040
事業費	1,180,852
委託費	83,463
小額修繕費	
その他	
支出計	8,689,355

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
【方法】 事業参加者に対し、4段階評価で実施
【設問数】 7問
【回答数】 291件
(2) 「人生の終い支度」～もしもの時に備えて話し合っていますか～
参加者の年齢・居住区・感想・要望等を把握するために行った。
【方法】 参加者に選択方式と自由記述で実施。
【設問数】 5問
【回答数】 11

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について
1「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足37.5% 満足58.8% 不満2.7% たいへん不満0.3% 無回答0.7%
2「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足36.1% 満足61.9% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答1.7%
3「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足40.2% 満足56.7% 不満2.4% たいへん不満0% 無回答0.7%
4「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足41.6% 満足57.0% 不満1.0% たいへん不満0% 無回答0.3%
5「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足37.5% 満足59.1% 不満1.7% たいへん不満0% 無回答1.7%
6「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足38.5% 満足60.1% 不満0.7% たいへん不満0% 無回答0.7%
7「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足37.5% 満足58.4% 不満2.4% たいへん不満0% 無回答1.7%
(2) の結果について
とても参考になった27%、少し参考になった45%、その他28%
【自由記述から抜粋】
・そんなに大切なこととしてではなく、普段の会話の中で話している。
・まだ話し合っていないが、いずれと思っている。
・今はまだ第一ステージと考え、自分らしく人生を！と一人暮らしで頑張ってます。
・あまり話し合っていない。健康長寿を伸ばす大切さを思いました。
・家族で共有する大切さを理解しました。
・娘にももっと話し合いを共有しておく必要を感じました。
・聞き取りにくかった点が残念でしたが、またこのような会がありましたら出席させていただきま

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている
- (2) 今後の講座を実施する際の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、大学生や児童館との交流、地域事業への参加を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「筋トレ」、東山区地域介護予防推進センターと連携した「健康増進教室」、「健康増進男塾」等を実施。その他、講師による「健康ヨーガを楽しむ会」、「元気ワクワク健康教室」を実施した。教養講座では、「スマホを楽しむ会」や「シニアのための片づけ講座」「レコードを聴く会」を開催した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市山科老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

（1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）

（2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）

（3）消防設備定期点検

（4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

（1）職員資質向上のための研修

（2）老人福祉センター利用案内の作成

（3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化

（4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用

（5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数24名）

区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成

（2）介護予防（実施回数127回、延参加者数3,083名）

健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援

（3）高齢者自主活動支援

同好会活動の支援（36同好会、実施回数828回、延参加者数9,078名）

ボランティア活動への支援など（延参加者数0名）

山科区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数29名）

（4）教養講座（実施回数22回、延参加者数344名）

生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応

（5）地域交流事業 未実施

（6）各種相談（相談件数9件）

（7）一般娯楽（実施回数635回、延参加者数6,054名）

いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施

（8）各種広報紙の発行（約750部/月）

施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知

（9）その他

・消防訓練（通報訓練、避難訓練、消火訓練）を実施

・実習生受入れ（京都府医師会看護専門学校8名）

・柳辻北部子供みこし会支援

・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

20,516 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: ○○日, 閉所期間: ○月○日～○月○日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位: 円)

委託料	9,796,576
その他	143,891
収入計	9,940,467

イ 令和5年度支出状況 (単位: 円)

人件費	8,200,143
事業費	1,828,332
委託費	112,722
小額修繕費	146,465
その他	
支出計	10,287,662

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施
【設問数】 7問
【回答数】 187件

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について
1「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足64.2% 満足35.8% 不満0% たいへん不満0% 無回答0%
2「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足55.1% 満足44.4% 不満0% たいへん不満0% 無回答0.5%
3「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足64.2% 満足35.8% 不満0% たいへん不満0% 無回答0%
4「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足62.6% 満足36.9% 不満0% たいへん不満0% 無回答0.5%
5「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足57.2% 満足40.6% 不満1.1% たいへん不満0% 無回答1.1%
6「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足55.1% 満足44.4% 不満0.5% たいへん不満0% 無回答0%
7「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足54.0% 満足44.4% 不満1.1% たいへん不満0% 無回答0.5%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムでは、利用者のニーズを取入れたことで参加者の増加、新規利用者の増加にもつながった。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、山科区地域介護予防推進センターと連携した「デュアルタスク体操」、「からだメンテナンス体操」、「かるがるトレーニング」等を実施。その他、講師による「音楽筋トレ体操」、「音楽認知ケア講座」、教養講座では、積極的に部屋の空き枠を活用し「スマホ体験講習会」や「エコクラフト講座」等を実施した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市山科中央老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数30名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数177回、延参加者数3,558名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（36同好会、実施回数840回、延参加者数14,329名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数964名）
山科区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数153名）
- （4）教養講座（実施回数109回、延参加者数2,530名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数2回、延参加者数39名）
共同事業（実施回数1回、延参加者数19名）
- （6）生きいきサロン（実施回数46回、延参加者数854名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数3件）
- （8）一般娯楽（実施回数275回、延参加者数3,571名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,100部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・合築施設合同消防避難訓練
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校8名、京都保健衛生専門学校7名、佛教大学14名）
 - ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

25,102 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 293日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	13,483,740
その他	231,942
収入計	13,715,682

イ 令和5年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	10,095,184
事業費	3,083,985
委託費	667,535
小額修繕費	145,500
その他	
支出計	13,992,204

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。

【方法】 事業参加者に対し、4段階評価で実施

【設問数】 7問

【回答数】 349件

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について

- 1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足39.5% 満足60.2% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答0%
- 2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足37.2% 満足62.8% 不満0% たいへん不満0% 無回答0%
- 3 「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足41.8% 満足57.6% 不満0.3% たいへん不満0.3% 無回答0%
- 4 「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足43.0% 満足56.7% 不満0% たいへん不満0.3% 無回答0%
- 5 「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足39.5% 満足59.6% 不満0.9 たいへん不満0% 無回答0%
- 6 「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足37.2% 満足62.2% 不満0.6% たいへん不満0% 無回答0%
- 7 「案内表示や広報物, 掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足36.1% 満足62.2% 不満1.7% たいへん不満0% 無回答0%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。

7 評価 (指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する16箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、児童館や地域の関係機関と交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、山科区地域介護予防推進センターと連携した「自宅でできる介護予防体操」や「体力アップ講座」等を実施した。その他講師による「じっくり学ぶ筋トレ&ストレッチ講座」、ボランティアによる「脳の若返り塾」等を実施。また、関係機関等との連携により、認知症への理解を深めることを目的とした「認知症サポーター養成講座」を山科老人福祉センターと共同事業として実施した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市下京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数2回、延参加者数18名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数203回、延参加者数3,808名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（33同好会、実施回数698回、延参加者数9,196名） ボランティア活動への支援など（延参加者数756名） 下京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者1,471名） （4）教養講座（実施回数81回、延参加者数1,150名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数6回、延参加者数480名） （6）生きいきサロン（実施回数44回、延参加者数779名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。 （7）各種相談（相談件数13件） （8）一般娯楽（実施回数308回、延参加者数3,850名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （9）各種広報紙の発行（約1,000部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （10）その他 ・合築施設防火訓練 ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校8名、佛教大学看護学科15名、 京都中央看護保健大学校6名、近畿高等看護専門学校2名） ・交通安全・詐欺防止の啓発 ・LINE公式アカウントでの情報発信
--

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

26,073 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況(単位: 円)

委託料	13,170,075
その他	291,842
収入計	13,461,917

イ 令和5年度支出状況(単位: 円)

人件費	10,040,449
事業費	2,951,349
委託費	155,313
小額修繕費	170,742
その他	
支出計	13,317,853

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
 【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施
 【設問数】 7問
 【回答数】 246件
- (2) 体験型ネットトラブル防止講座(スマホ安全教室)(令和5年10月30日)
 参加者に対し、事前アンケートを行い、当日の講座方法の参考とした。
 設問数3問 回答数8
- (3) 講座「人生の終い支度」(令和5年10月31日)
 選択方式と自由記述で実施 設問数7問 回答数21
- (4) スポーツボイス講座(令和5年11月29日)
 選択方式と自由記述で実施 設問数3問 回答数21
- (5) 元気はつらつ・スカット講座(令和5年11月、6年1月、3月)
 選択方式と自由記述で実施
 任天堂スイッチゲーム「太鼓の達人」 設問数4問 回答数10
 " 「ボーリング」① 設問数4問 回答数19
 " 「ボーリング」② 設問数4問 回答数22
- (6) 認知症サポーター養成講座(令和6年1月30日)
 セミナー参加の動機や感想等を知り、次回セミナーに活かすためにアンケートを行った。
 選択方式と自由記述で実施。 設問数5問 回答数34

(2) 利用者満足度把握の結果

—

(1) の結果について

- 1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足17.1% 満足74.0% 不満6.5% たいへん不満0.8% 無回答1.6%
- 2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足16.3% 満足80.1% 不満1.2% たいへん不満0.8% 無回答1.6%
- 3 「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足15.9% 満足70.7% 不満10.2% たいへん不満1.2% 無回答2.0%
- 4 「言葉使いや説明は親切でいいですか」
たいへん満足17.1% 満足74.4% 不満6.1% たいへん不満0.8% 無回答1.6%
- 5 「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足15.4% 満足74.8% 不満4.9% たいへん不満0.4% 無回答4.5%
- 6 「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足19.5% 満足76.8% 不満1.6% たいへん不満0.4% 無回答1.6%
- 7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足20.3% 満足76.4% 不満1.2% たいへん不満0.4% 無回答1.6%

(2) 体験型ネットトラブル防止講座(スマホ安全教室)

口頭で確認、満足度が高いものであった。

(3) 講座「人生の終い支度」

各利用者にとって切実な問題であり、大いに参考となったとの意見もあるが、ネット配信ではなく、対面での講座を要望する意見が多かった。

(4) スポーツボイス講座について

昨年に続き、2度目の開催、回数増の希望あり。

(5) 元気はつらつ・スカット講座

新たな取り組みで、非常に満足度が高い。

(6) 認知症サポーター養成講座について

あらためて認知症に対する認識を深められたとの意見あり。

各参加者の個人の問題として受講されている。

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。

(2) 京都府警察ネット安心アドバイザーによる「スマホ安全教室」

今年度参加者数が少なかったことについては、広報の充実を図る必要があるが、講座などを通じて啓発が必要

(3) 講座「人生の終い支度」

対面での講座開催を検討する。

(4) スポーツボイス講座

好評だったため、6年度も開催を依頼したい。

(5) 元気はつらつ・スカット講座

大盛況、好評のため、単なるゲーム機を使っただけの娯楽ではなく、高齢者の介護予防につなげていくことを検討したい。

(6) 認知症サポーター養成講座

アンケート結果は、地域包括・推進センター・区社協と共有し、6年度に向けて新たな手法での講座を検討したい。

7 評価(指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協の新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、保育園との交流や区社会福祉協議会との共済事業において地域住民との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、筋トレボランティアによる「さわやか筋トレ」、下京区地域介護予防推進センターと連携した「脳いきいき健康クラブ」、「下京ほっこり教室」、その他講師による「練功十八法のつどい」「ストレッチ体操講座」等を実施した。教養講座では、「スマホ使い方交流会」、「手芸講座」、「歴史と文化」、認知症の理解を深める「認知症サポーター養成講座」を実施した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市南老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数9名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数94回、延参加者数1,221名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（26同好会、実施回数514回、延参加者数6,152名） ボランティア活動への支援など（延参加者数53名） 南区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数397名） （4）教養講座（実施回数39回、延参加者数614名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業（実施回数3回、延参加者数139名） （6）各種相談（相談件数12件） （7）一般娯楽（実施回数600回、延参加者数5,730名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （8）各種広報紙の発行（約1,000部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （9）その他 ・実習生の受入れ（京都保健衛生専門学校4名、近畿高等看護専門学校2名） ・京都市エコまちステーション拠点として、資源ごみ回収ボックスを常設及び 臨時資源物回収の開催（年2回） ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、契約職員1名 臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

14,368 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	10,100,385
その他	211,851
収入計	10,312,236

イ 令和5年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	7,674,509
事業費	1,713,707
委託費	235,600
小額修繕費	238,700
その他	
支出計	9,862,516

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。

【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施

【設問数】 7問

【回答数】 229件

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について

- 1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足44.1% 満足54.6% 不満0.4% たいへん不満0.4% 無回答0.4%
- 2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足37.1% 満足61.6% 不満0.4% たいへん不満0.4% 無回答0.4%
- 3 「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足43.2% 満足55.0% 不満0.4% たいへん不満0.4% 無回答0.9%
- 4 「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足43.2% 満足54.6% 不満0.9% たいへん不満0.4% 無回答0.9%
- 5 「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足40.6% 満足56.3% 不満1.7% たいへん不満0.4% 無回答0.9%
- 6 「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足37.6% 満足60.3% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答1.7%
- 7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足36.7% 満足60.3% 不満0.9% たいへん不満0% 無回答2.2%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。

7 評価 (指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や教養講座への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、児童館との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、南区地域介護予防推進センターと連携した「さわやか体操」、「はつらつ脳トレ」等を実施。南区健康づくりサポーターによる「みんなで元気体操」、その他講師による「シニアヨガ」や「5年後の健康」等を実施した。その他、交流事業として、近隣児童館と「いっしょにフォークダンス」や「いっしょに折り紙」、近隣福祉施設と連携して「地域ふれあい秋まつり」を実施した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市右京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座 未実施 ※右京中央老人福祉センターでの開催にあたり利用者へ周知・参加推奨した （2）介護予防（実施回数142回、延参加者数3,058名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（33同好会、実施回数369回、延参加者数3,524名） ボランティア活動への支援など（延参加者数559名） 右京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数312名） （4）教養講座（実施回数14回、延参加者数144名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流（実施回数1回、延参加者数23名） （6）各種相談（相談件数13件） （7）一般娯楽（実施回数1,207回、延参加者数8,618名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （8）各種広報紙の発行（約4100部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （9）その他 ・実習生受入れ（京都保健衛生専門学校4名） ・シェイクアウト訓練で地震時の対応を確認 ・環境整備ボランティアによる環境整備を実施

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、契約職員1名 臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

16,127 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	9,681,338
その他	202,121
収入計	9,883,459

イ 令和5年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	7,437,859
事業費	1,793,765
委託費	139,122
小額修繕費	376,860
その他	
支出計	9,747,606

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
 【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施
 【設問数】 7問
 【回答数】 157件
 (2) スポーツボイストライアル講座アンケート
 参加の感想と要望を知り、次年度事業に活かすためアンケートを行った。
 【方法】スポーツボイス参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
 【設問数】 3問
 【回答数】 29

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について
 1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
 たいへん満足45.2% 満足52.2% 不満0.6% たいへん不満0% 無回答1.9%
 2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
 たいへん満足43.3% 満足54.1% 不満0.6% たいへん不満0% 無回答1.9%
 3 「表情や態度は感じが良いですか」
 たいへん満足45.9% 満足51.0% 不満0.6% たいへん不満0% 無回答2.5%
 4 「言葉使いや説明は親切でいいですか」
 たいへん満足45.2% 満足52.9% 不満0% たいへん不満0% 無回答1.9%
 5 「説明は的確で分かりやすいですか」
 たいへん満足44.6% 満足51.0% 不満1.3% たいへん不満0% 無回答3.2%
 6 「整理整頓は行き届いていますか」
 たいへん満足47.1% 満足51.0% 不満0% たいへん不満0% 無回答1.9%
 7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
 たいへん満足42.7% 満足51.6% 不満0.63% たいへん不満0% 無回答5.1%
 (2) スポーツボイストライアル講座アンケートの結果
 【スポーツボイスについて】 良かった86%、普通14%
 【参加について】 また参加したい79%、参加したくない7%、どちらでもない14%
 【自由記述】
 ・体のしくみを説明しながらの講義でわかりやすかった
 ・声がお腹から出たのを感じることができた
 ・ハードでしたが楽しかった
 ・サークルがあれば参加したい

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。
(2) スポーツボイストライアル講座アンケートの結果
令和6年度も実施できるよう検討する。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、児童館との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「筋トレ」、右京区地域介護予防推進センターと連携した「介護予防運動教室」等を実施。その他講師による健康「椅子に座って簡単体操」や「健康ヨガ」等を実施した。教養講座では、「歴史講座」や「スマホ講座」等を実施した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市右京中央老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数14名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数132回、延参加者数3,825名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（37同好会、実施回数828回、延参加者数12,237名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数2,635名）
右京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数843名）
- （4）教養講座（実施回数45回、延参加者数738名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業 未実施
- （6）生きいきサロン（実施回数34回、延参加者数443名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数2件）
- （8）一般娯楽（実施回数440回、延参加者数7,532名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,200部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・合築施設合同消防避難訓練
 - ・実習生の受入れ（佛教大学看護学科16名、京都中央看護保健大学校6名、近畿高等看護専門学校2名）

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

29,850 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位: 円)

委託料	13,393,740
その他	279,522
収入計	13,673,262

イ 令和5年度支出状況 (単位: 円)

人件費	9,585,762
事業費	3,247,720
委託費	728,005
小額修繕費	121,770
その他	
支出計	13,683,257

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
 【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施
 【設問数】 7問
 【回答数】 449件
 (2) 認知症講座
 フレイル予防の大切さ周知するために講座を開いた。感想と要望を集約し、次年度共同実施事業に活かすためアンケートを行った。
 【方法】講座参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
 【設問数】 6問
 【回答数】 27

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について
 1「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
 たいへん満足42.3% 満足56.6% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答0.7%
 2「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
 たいへん満足39.0% 満足59.9% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答0.7%
 3「表情や態度は感じが良いですか」
 たいへん満足42.5% 満足56.1% 不満0.2% たいへん不満0% 無回答1.1%
 4「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
 たいへん満足41.2% 満足57.0% 不満0.2% たいへん不満0% 無回答1.6%
 5「説明は的確で分かりやすいですか」
 たいへん満足38.8% 満足59.2% 不満1.1% たいへん不満0% 無回答0.9%
 6「整理整頓は行き届いていますか」
 たいへん満足39.4% 満足58.1% 不満0.7% たいへん不満0.2% 無回答1.6%
 7「案内表示や広報物, 掲示物は分かりやすいですか」
 たいへん満足35.6% 満足62.1% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答1.8%
 (2) 認知症講座アンケート
 大変良かった 77%
 良かった 23%
 もう少し 0%
 よくない 0%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。
(2) 「わかりやすかった」「楽しみが増えました」「今より少しでもよくなりたい」等々、前向きな感想が多かった。引き続きの講座開催の際の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業・教養講座・同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、右京区地域介護予防推進センターによる「ころばん体操」「体力測定会」等を実施、光華女子大学講師による「認知症講座」、その他「歌の広場」を開催した。教養講座では、関係機関との連携による「認知症サポーター養成講座」や、その他講師による「折り紙講習会」、「スマホ教室」、右京消防署による「救命救急指導講座」等を開催した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市西京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数2回、延参加者数16名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数315回、延参加者数3,967名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（45同好会、実施回数862回、延参加者数8,972名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数109名）
西京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者499名）
- （4）教養講座（実施回数21回、延参加者数326名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流事業（実施回数4回、延参加者数678名）
共同事業（実施回数2回、延参加者数204名）
- （6）生きいきサロン（実施回数44回、延参加者数809名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数22件）
- （8）一般娯楽（実施回数485回、延参加者数6,359名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,800部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・合築施設の防災訓練
 - ・学習支援（約月1回）
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校8名、京都保健衛生専門学校8名）
 - ・日常生活自立支援事業について、西京区社協から金庫及び通帳預かり業務を受託し協力
 - ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

31,126 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位: 円)

委託料	13,393,740
その他	305,462
収入計	13,699,202

イ 令和5年度支出状況 (単位: 円)

人件費	10,233,160
事業費	3,013,157
委託費	622,061
小額修繕費	292,424
その他	
支出計	14,160,802

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施
【設問数】 7問 【回答数】 311件
- (2) 「食べているのに痩せていませんか」(R5.5.11)
【方法】参加者に対し、感想と「今後当講座で希望するテーマ」を記述形式で実施
【設問数】 2問 【回答数】 17
- (3) 「带状疱疹について ドクトル コロンダの事件簿」(R5.7.13)
【方法】参加者に対し、感想と「今後当講座で希望するテーマ」を記述形式で実施
【設問数】 2問 【回答数】 19
- (4) 「骨粗しょう症について」(R5.9.14)
【方法】参加者に対し、選択方式と記述形式で実施
【設問数】 2問 【回答数】 29
- (5) 「お薬の相談ってだれにできるの?」(R5.11.9)
【方法】参加者に対し、選択方式と記述形式で実施
【設問数】 2問 【回答数】 17
- (6) 「認知症について」(R6.1.11)
【方法】参加者に対し、感想と「今後当講座で希望するテーマ」を記述形式で実施
【設問数】 2問 【回答数】 12
- (7) 「おしっこが近い! 出にくい 年齢のせいだと諦めていませんか」(R6.3.13)
【方法】参加者に対し、感想と「今後当講座で希望するテーマ」を記述形式で実施
【設問数】 2問 【回答数】 22
- (8) 「スマホで写真教室」(R6.10.17)
今後の利用者の要望に応じた内容を実施する為のアンケートを実施。
【方法】スマホ写真教室参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】 5問 【回答数】 13
- (9) 「シニアのための安全運転講座」(R5.12.7)
【方法】シニアのための安全運転講座参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】 4問 【回答数】 11

(2) 利用者満足度把握の結果

—

(1) の結果について

- 1「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足67.5% 満足32.5% 不満0% たいへん不満0% 無回答0%
- 2「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足63.0% 満足37.0% 不満0% たいへん不満0% 無回答0%
- 3「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足67.8% 満足32.2% 不満0% たいへん不満0% 無回答0%
- 4「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足68.9% 満足30.7% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答0%
- 5「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足63.0% 満足36.0% 不満1.0% たいへん不満0% 無回答0%
- 6「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足56.9% 満足41.8% 不満1.3% たいへん不満0% 無回答0%
- 7「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足57.1% 満足41.6% 不満0.6% たいへん不満0% 無回答0.6%

(2) についての結果 (一部抜粋)

【今後、希望するテーマは？】ストレス、睡眠、便秘、血圧、耳の調子、運動障害
【感想】とても参考になった。冷凍食品のメニューが参考になった。

(3) についての結果 (一部抜粋)

【今後、希望するテーマは？】頭に体操・手足の変形・痛みについて・物忘れ
【感想】よく理解できた。非常に勉強になった。参加者を巻き込んで楽しく学べた。

(4) についての結果 (一部抜粋)

【今後、希望するテーマには？】心房細動・認知症・頻尿・甲状腺・高齢者のがん・アレルギー
【感想】骨の大切さ感じさせられた。骨粗鬆症の薬を服用しているこの状態を維持したい。

(5) についての結果 (一部抜粋)

【今後、希望するテーマは？】糖尿病の詳しい講座・腎臓と塩分関係・腰痛対策について
【感想】安心、安全な医療を提供してくれる良い薬局を選びたい。

(6) についての結果 (一部抜粋)

【今後、希望するテーマは？】認知症については何回も聞きたい。
フレイル予防・運動・食事・高齢者の健康生活
【感想】認知症を科学的に勉強できてよかった。
日常生活でチェックし早めに予防していきたい。

(7) についての結果 (一部抜粋)

【参加のきっかけ】スマホとデジカメの違いが知りたい。
スマホで気軽に写真が撮りたい。
【感想】楽しんで写真を撮ること。
多く撮ってダメなら消せばいいと学び、いっぱいシャッターを押そうと思った。

(8) についての結果 (一部抜粋)

【運転免許の返納について、どのようにお考えですか？】
・できるだけ乗らないようにしている。
・日常生活に支障が出る前に返却することを考えている。
・時期を悩んでいる。・車検時どうするか考えようと思っている。
【交通事故防止のために気を付けていること？】
・夜は運転しない。余裕をもってでかける。スピードを出さない。雨天時、夜間は運転しない。

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。
- (2) アンケート結果は、各共催関係機関と共有し、今後の講座のテーマを決める参考とする。

7 評価 (指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業・教養講座・同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、児童館との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、西京医師会等による「すこやか講座」、西京区地域介護予防推進センターによる「椅子で筋トレ」「脳トレ教室」等、職員による「百歳体操」、「大人の塗り絵」「頭の体操・漢字おさらいのつどい」を実施した。また、教養講座では、「スマホ講座」や西京消防署による「普通救命講習会」等を開催した。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市洛西老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数8名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数328回、延参加者数4,999名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（68同好会、実施回数1,503回、延参加者数18,947名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数2,853名）
西京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数369名）
- （4）教養講座（実施回数37回、延参加者数505名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数4回、延参加者数182名）
- （6）生きいきサロン（実施回数47回、延参加者数669名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数11件）
- （8）一般娯楽（実施回数349回、延参加者数4,792名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,500部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・消防避難訓練
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校8名、京都中央看護保健大学校6名）
 - ・地域団体作品展示
 - ・アルミ缶・プルトップ収集協力
 - ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、契約職員1名 計3名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

38,650 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位: 円)

委託料	28,425,411
その他	317,452
収入計	28,742,863

イ 令和5年度支出状況 (単位: 円)

人件費	10,850,502
事業費	18,498,149
委託費	321,723
小額修繕費	
その他	
支出計	29,670,374

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。 【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施 【設問数】 7問 【回答数】 474件
(2) 「やさしい筋トレ」参加者アンケート 参加者の感想・要望等を聞き取り、今後の事業運営の参考にするために実施した。 【方法】年度末に参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。 【設問数】 7問 【回答数】 44
(3) 「健康講座」参加者アンケート 年間4回実施。各回のテーマ ①糖尿病 ②骨粗しょう症 ③排尿障害 ④認知症 参加者の参加動機と感想・要望等を聞き取り、今後の事業運営の参考にするために実施した。 【方法】講座終了後に参加者に対し、自由記述方式で実施。 【設問数】 自由記述のみ1問 【回答数】 ①29 ②21 ③33 ④38

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について
1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」 たいへん満足37.3% 満足60.8% 不満1.1% たいへん不満0% 無回答0.8%
2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」 たいへん満足36.5% 満足62.5% 不満0% たいへん不満0.2% 無回答0.8%
3 「表情や態度は感じが良いですか」 たいへん満足39.2% 満足58.6% 不満0.6% たいへん不満0% 無回答1.5%
4 「言葉使いや説明は親切でいていねいですか」 たいへん満足42.2% 満足56.3% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答1.1%
5 「説明は的確で分かりやすいですか」 たいへん満足40.5% 満足56.8% 不満0.6% たいへん不満0% 無回答2.1%
6 「整理整頓は行き届いていますか」 たいへん満足39.0% 満足59.3% 不満0.4% たいへん不満0% 無回答1.3%
7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」 たいへん満足36.7% 満足60.5% 不満1.1% たいへん不満0% 無回答1.7%

- (2) 「やさしい筋トレ」参加者アンケートの結果（複数選択可の項目があるので、すべて人数）
- 【参加について】 ・初めて36 ・初めてではない6
 - 【役立ったこと】 ・筋力が鍛えられた27 ・体調がよくなった26
・方法の理解39 ・交流が楽しい26 ・その他4
 - 【よかったメニュー】 ・筋トレ38 ・ストレッチ26 ・脳トレ17
 - 【きつさ】 ・ちょうどよい34 ・物足りない5 ・無回答5
 - 【自宅での実施】 ・週1～2回19 ・月1～2回3 ・時々16 ・していない2
 - 【実施時間】 ・もっと短く1 ・ちょうどよい32 ・もっと長く7 ・無回答4
 - 【自由記述】 ・ありがたい。感謝している。楽しい。役に立つ等の感想がほとんど。
・できれば週一回してほしいという意見もあった。
- (3) 「健康講座」参加者アンケートの結果（主な内容のみ記載）
- 【①糖尿病】 ・私は糖尿病治療していますが、再認識できてよかったです。
・運動が日常生活では大切なことがわかりました。
 - 【②骨粗しょう症】 ・普段から運動リハビリの必要性を感じました。
・五十肩について、よくわかり、よかったです。
 - 【③排尿障害】 ・尿のお話よくわかりました。家では体操をしようと思います。
・外出すると長く排尿までの時間が延びることが分かった。
 - 【④認知症】 ・認知機能が低下した人へのかかわり方をわかりやすく話していただいた。
・自分の認知も心配ですが、社会での見守りが大切だと思いました。

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。
- (2) アンケートの結果は筋トレ西ネットさんと共有し、次年度の事業の参考とする。
- (3) アンケートの結果は西京医師会さんと共有し、次年度の事業の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、教養講座や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取り入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、児童館や地域施設との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

1種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、筋トレ西ネットによる「やさしい筋トレ」、西京医師会による「健康講座」、西京区地域介護予防推進センターと連携した「のんびり体操」「簡単エアロエクササイズ」等を実施。その他講師による「レッツレクダンス」、「健康のつどい」を実施した。教養講座では、西京消防署との連携で「普通救命講習会」や関係機関との連携による「認知症サポーター養成講座」を開催した。また、近隣児童館と「クリスマス会」や近隣施設との「コンサート」を実施し、交流を行った。

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市伏見老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数2回、延参加者数46名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数315回、延参加者数4,751名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（35同好会、実施回数884回、延参加者数14,717名） ボランティア活動への支援など（延参加者数5名） 伏見区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数631名） （4）教養講座（実施回数66回、延参加者数946名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数1回、延参加者数39名） （6）生きいきサロン（実施回数45回、延参加者数794名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として 実施し、レクリエーション等を行う。 （7）各種相談（相談件数15件） （8）一般娯楽（実施回数96回、延参加者数1,232名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （9）各種広報紙の発行（約1,200部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （10）その他 ・消火・地震訓練 ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校8名、京都保健衛生専門学校6名、 京都中央看護保健大学校6名） ・LINE公式アカウントでの情報発信
--

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

29,109 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況(単位:円)

委託料	13,027,075
その他	312,299
収入計	13,339,374

イ 令和5年度支出状況(単位:円)

人件費	10,143,381
事業費	3,030,213
委託費	127,382
小額修繕費	11,000
その他	
支出計	13,311,976

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。

【方法】 事業参加者に対し、4段階評価で実施

【設問数】 7問

【回答数】 379件

- (2) 楽しい工房講座アンケート
- (3) 健康はつらつ講座アンケート
- (4) スマホ講座アンケート
- (5) スマホ相談会アンケート
- (6) 総務省スマホ使い方講座アンケート
- (7) スポーツボイス講座アンケート

事業の感想と要望を知り、次年度事業に活かすためアンケートを行った。

【方法】 参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。

【設問1】 6段階評価で実施

・非常に良かった・良かった・普通・あまり良くなかった・良くなかった・無回答

【設問2】 講座の感想、意見

【設問3】 今後の講座の希望

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について					
1 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」	たいへん満足23.0%	満足75.5%	不満1.3%	たいへん不満0%	無回答0.3%
2 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」	たいへん満足20.1%	満足78.4%	不満1.6%	たいへん不満0%	無回答0%
3 「表情や態度は感じが良いですか」	たいへん満足22.7%	満足75.5%	不満1.8%	たいへん不満0%	無回答0%
4 「言葉使いや説明は親切でていねいですか」	たいへん満足23.0%	満足75.7%	不満1.3%	たいへん不満0%	無回答0%
5 「説明は的確で分かりやすいですか」	たいへん満足21.4%	満足77.0%	不満1.6%	たいへん不満0%	無回答0%
6 「整理整頓は行き届いていますか」	たいへん満足19.3%	満足77.8%	不満2.6%	たいへん不満0%	無回答0.3%
7 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」	たいへん満足19.0%	満足78.6%	不満0.8%	たいへん不満0.5%	無回答1.1%
(2) 楽しい工房講座	参加者 8名	非常に良かった 5名	良かった 3名	普通0名	
(3) の結果について	参加者12名	非常に良かった 4名	良かった 7名	普通1名	
(4) の結果について	参加者19名	非常に良かった 5名	良かった 9名	普通1名	無回答4名
(4) の結果について	参加者14名	非常に良かった 7名	良かった 4名	普通0名	無回答3名
(6) の結果について	参加者15名	非常に良かった 3名	良かった 8名	普通2名	無回答2名
(7) の結果について	参加者31名	非常に良かった13名	良かった15名	普通3名	
※あまり良くなかった	全て 0名、	良くなかった	全て 0名		

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。
(2) ～ (7) ほとんどが、また企画してほしいとの好感的な意見であった。 特にスマホ関連の講座に対しては、満足度が高い意見が多かった。 アンケート結果は各講師と共有し、今年度の事業の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。 新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、介護予防事業や同好会活動への参加が増加、気軽に参加できるプログラムを取入れたことで新規利用者の増加につながった。また地域交流事業として、小学校との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。 収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。 1 種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。 知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。 同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。 事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。 障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。 介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「筋トレ」、伏見区地域介護予防推進センターと連携した「ファイン体操教室」や「みんなのヘルスクエア講座」を実施。その他、職員による「ココから体操」を実施した。教養講座では、利用者からのニーズが高いテーマを取り上げ、「スマホ初心者講座」や「エコクラフト講座」等を開催。「スマホ講座」受講修了者の一部を対象にスマホコンシェルジュを育成し、伏見区社会福祉協議会と連携し、地域の高齢ボランティアの育成支援に努めた

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市醍醐老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数22名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数196回、延参加者数4,500名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（44同好会、実施回数1,159回、延参加者数21,238名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数869名）
伏見区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数165名）
- （4）教養講座（実施回数61回、延参加者数1,214名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流事業（実施回数1回、延参加者数9名）
- （6）生きいきサロン（実施回数45回、延参加者数830名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数39件）
- （8）一般娯楽（実施回数308回、延参加者数7,111名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,500部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・合築施設合同消防避難訓練
 - ・就労支援利用者の受入れ
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校8名、佛教大学16名、京都中央看護保健大学校6名）
 - ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

44,536 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 292日)

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況 (単位: 円)

委託料	17,257,737
その他	318,337
収入計	17,576,074

イ 令和5年度支出状況 (単位: 円)

人件費	9,836,354
事業費	3,194,916
委託費	3,565,251
小額修繕費	216,500
その他	
支出計	16,813,021

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 職員対応、見だしなみ、施設の案内等について、施設運営向上を目的に利用者を対象にアンケート調査を行った。
【方法】事業参加者に対し、4段階評価で実施
【設問数】 7問
【回答数】 298件
- (2) スポーツボイス講座アンケート
参加にあたっての意見や感想により、次年度実施について検討。
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
【設問数】 6問
【回答数】 23
- (3) 人生の終い支度講座アンケート
講座についての意見や感想により、次年度講座実施について検討。
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
【設問数】 7問
【回答数】 24
- (4) 認知症サポーター養成講座アンケート
講座についての意見や感想により、次年度講座内容について検討。
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
【設問数】 6問
【回答数】 18

(2) 利用者満足度把握の結果

—

- (1) の結果について
- 「あいさつやお声がけはきちんとできていますか」
たいへん満足40.6% 満足56.4% 不満1.3% たいへん不満0.3% 無回答1.3%
 - 「身だしなみは業務にふさわしいものですか」
たいへん満足39.6% 満足58.4% 不満0.3% たいへん不満0% 無回答1.7%
 - 「表情や態度は感じが良いですか」
たいへん満足41.6% 満足54.7% 不満1.3% たいへん不満0.3% 無回答2.0%
 - 「言葉使いや説明は親切でていねいですか」
たいへん満足44.0% 満足52.3% 不満1.0% たいへん不満0.3% 無回答2.3%
 - 「説明は的確で分かりやすいですか」
たいへん満足41.6% 満足53.0% 不満1.7% たいへん不満0.3% 無回答3.4%
 - 「整理整頓は行き届いていますか」
たいへん満足41.6% 満足54.4% 不満1.7% たいへん不満0% 無回答2.3%
 - 「案内表示や広報物、掲示物は分かりやすいですか」
たいへん満足39.68% 満足55.0% 不満1.3% たいへん不満0% 無回答4.0%
- (2) スポーツボイス講座アンケートの結果
【性別】男性4%、女性96% 【年齢】60代9%、70代44%、80代44%、不明4%
【講座内容について】すごく良かった83%、良かった17%、普通0%、良くなかった0%
【講座参加について】参加したい100%、参加したくない0%、どちらでもない0%
- (3) 人生の終い支度講座アンケートの結果
【年齢】60代4%、70代33%、80代63%
【居住区について】伏見区92%、山科区8%
【講座を知ったきっかけ】センター広報紙96%、チラシ0%、友人知人の紹介4%、その他0%
【視聴理由について】自分のため92%、親族のため4%、その他4%
【講座内容について】とても参考になった45%、少し参考になった33%、内容が物足りなかった0%
難しく理解できなかった8%、その他4%
- (4) 認知症サポーター養成講座アンケートの結果
【性別】男性6%、女性94% 【年齢】60代6%、70代39%、80代39%、90代11%、不明6%
【認知症を学ぶ機会について】あった67%、なかった33%
【認知症の理解について】よく理解できた22%、理解できた50%、理解できなかった0%、未回答28%
【認知症のイメージについて】大きく変わった6%、変わった67%、変わらない11%、未回答

(3) 意見等への主な対応状況

- アンケート結果は集計をセンター内に掲示するとともに広報紙へも結果を一部掲載。職員間でも共有し、利用者の意見・要望を取り入れた施設運営及び事業企画・実施へつなげている。
- アンケート結果は、講師と共有し今後の講座実施の参考とする。
- アンケート結果は、今後の講座の参考とする。
- アンケート結果は、講師と共有し今後の講座実施の参考にした。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、同好会活動の参加が増加、気軽に参加できるプログラムの回数や定員を増やすことで参加者が増加、新規利用者の増加にもつながった。また地域交流事業として、児童館との交流を行った。年間利用者総数も前年度と比較して増加した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加する要因もあるが、支出全体の抑制に努めた。

1 種老人福祉センターでは、生きいきサロン事業において職員が培ったレクリエーション等の知識や道具を地域の健康すこやか学級等で役立ててもらえるよう、レクリエーション実践集として平成24年度に続いて平成26年度にパート2、平成28年度にパート3、平成30年度にパート4、令和2年度のパート5発行、令和5年度はパート6を発行を行った。

知恵シルバースセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「筋トレ」、深草・醍醐地域介護予防推進センターと連携した「認知症予防教室」や「体操教室」等を実施。その他、講師による「スカイクロス」、「ステッププラス」「おりがみサロン」や、職員による「脳活サロン」、「てづくりサロン」を実施。教養講座では、「歴史講座」「うたごえサロン」「スマホ講座」等を実施した。